

やけどの応急処置



やけどは「熱傷」とよばれ、熱による皮膚や粘膜の外傷を言います。原因としては、やかんやポットの湯、コーヒーやお茶、てんぷら油、カップ麺、味噌汁など高温液体によるもの、ストーブやアイロンなど熱性固体の接触によるものが多く見られます。



やけどの程度

- ★Ⅰ度 皮膚が赤く、ひりひります。数日で治ります。
- ★Ⅱ度 皮膚が赤く、水ぶくれができ、痛みがあります。
- ★Ⅲ度 皮膚が黒、褐色または白色になり、水ぶくれはできず、感覚がなくなり、痛くありません。

応急処置



①直ちに流水で冷やしましょう

⇒水道水で5~30分ほどを目安に冷やします。やけどの進行を止め、痛みも押さえることができます。
小範囲であれば水道の流水で、広範囲であればシャワーで冷やすとよいでしょう。ただし子供や高齢者の場合は広範囲に長時間冷やすと低体温になることがあるので注意が必要です。
顔など流水で冷やしにくい部位は水で濡らしたタオルなどを交換しながら冷やします。
やけどの部位はだんだん腫れてくるので指輪などアクセサリーは早めに外しましょう！



②水ぶくれができる場合にはできるだけ破らないようにしましょう

⇒細菌感染を防ぐためです。
服を脱がせる時に水ぶくれを破いてしまう場合があるため、服を着たまま水道水で冷やしましょう。

③冷やした後は清潔なタオルや布で保護しましょう。

⇒清潔に保ち、細菌感染を防ぎます。

こんな時は病院へ！

やけどの深度は自己判断することが難しく、時間の経過とともに患部の様子が変化することもあります。また、やけどの部位に細菌感染をきたすと、傷が深くなり治るまでに時間がかかりたり、やけどのあとや皮膚のもりあがりなど後遺症が残ることになります。そのため、迷った場合には病院を受診しましょう。特にやけどをした部位が手足、顔面、陰部などの場合は小範囲でも専門の治療が必要です。

日本創傷外科学会 <https://www.jsswc.or.jp/general/yakedo.html>

日本形成外科学会 [やけど（熱傷） | 日本形成外科学会](#)

日本皮膚科学会 [やけど - 皮膚科 Q&A（公益社団法人日本皮膚科学会）](#)